

---

# 君が僕であなかが私

コルっち

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>



• ? ?  
° ? ?  
• \* \*  
• ? ?  
° ? ?  
• ? ?  
° ? ?  
\* ? ?  
° ? ?  
• ? ?  
° ? ?  
? ? ?  
\* \* \*  
• ? ?  
° ? ?  
? ? ?  
• \* \*  
• ? ?  
° ? ?

## プロローグ

もともとPC版のMMOの中でとても人気だったソフトが今回、VR用に仕様の改良版が発売されてその初回ロットの三万本のうちのひとつをで予約をし、一年以上首を長くして待ちいざ買えたと思いつつVMMOをやってみると、単なる開発者の遊びで作った仕様がバグのせいらしく、クリアするまで終了出来ないしゲーム内で死んだり接続を外されたらリアルという名の現実で死ぬとかいうどこのラノベだよ仕様になつたり…

唐突だけど…

他人の体つてもものすごく使いづらい…

しかも、その体が異性のものだつたら余計にだ…

そして一度くらいは他人の体になってみたいなんて思っている男子諸君もこれを読めばすごい苦労する事をわかってもらえるだろう。なぜならゲーム内でふとした事故によりキャラが入れ替わってしまったからだ…

まあ、そんな例は俺らしかない特殊な例らしいが…

とかいっちゃてどうなるかは気分次第です…

もしかしたら、VMMOではないおはなしになるかも？

## プロローグ（後書き）

??°\*°°??\*°?°°?°\*°?°°\*°?°°\*°  
?\*°\*°?°°?°\*°\*°?°°\*°\*°?°°\*°°°?

二作目ですが・・・更新は不定期です。

ちなみに、あんまりオンラインのPCゲーはしません・・・  
それなのに書こうとか・・・

うまく書けるかどうかわかりませんがよろしくお願いします。

??°\*°°?°°?°\*°\*°?°°?°\*°\*°?°°\*°\*°?°°\*°°°?  
?\*°\*°?°°?°\*°\*°?°°\*°\*°?°°\*°°°?



## 1話

この世界はとてつまらなくそして自分はいろいろとツイてない！  
だが、この時はただでさえツイてないのにも関わらず本当にツイて  
ない体になるとは思ってもいなかった…

「よお、雅輝！お前、何時にも増してなんか暗いな…なんかあった  
のか？」

「ああ、なんだ…浩介か…いやあ、昨日は日直だったじゃん。」

「あつ！昨日の浮島にけられたやつ？」

「うん…」

浮島と言うのはあだ名、自分のクラスの担任で本名を鈴村紀夫とい  
うのだが外見は、ケツアゴで頭がてっぺんを中心に禿げてるけど前  
髪のがごりかなんか知らないが頭に黒い浮島があり、最近なにを思  
ったのかしらないが無造作にヒゲを伸ばし始めた先生なのである。  
なんか髪にすごい未練がありますって感じだからいつそ、坊主にす  
ればいいのに…

まあ、そんな事はおいとして、その先生は英語の担当なのだが、昨  
日は授業が始まる時に入ってきた時に機嫌が悪かったのと、たまた  
ま日直で黒板を消したのだが、一部、薄くチョークがのこり白くな  
っていたのと、教壇に黒板消しが落ちた後があり、そのせいで

「日直！ちゃんと黒板キレイにしろよ！教壇はモップで今すぐふけ  
！」

と怒鳴りながら、いきなりローキックをしてきたのだ。

いやいや、いくら機嫌悪い+僕の事が嫌いだからとはいえ、ねえ…  
そこそこ普通の蹴りだったんで地味に痛かったのと周りからのああ  
かわいそうにみたいなの視線がとてモイタかった…

蹴られた後モップを濡らして教壇拭いて…  
やっと授業が始まりました！みたいな…

「二度ある事は三度あるっていうじゃん！なんか今日嫌な予感する  
んだよね…」

蹴られたのが二度目で一度目というのが前々回の授業で単語の小テ  
ストの時にその先生に字が汚く名前が読めないといきなり頭を叩か  
れ単語が抜け落ちてしまい、点数が悪かったのだ…ツイてない…

「うーん、まあ気にすんなよ！ほらっ、はやく行こうぜ！」

「まあ、気にしても仕方ないよね〜今日は、なんも無ければいいな  
…」





## 2話

おっと…

ちよつと嫌な事を思い出していたら自己紹介が遅くなってしまった

…  
僕の名前は南の城で雅に輝くと書いて南城なんじょう 雅輝みやきと読むのだが、

バカにされたりするときは、ガキとか言われるのがちよつと難点かなあ…

でも、昔からあんまり変わってないよねとか言われるから仕方ないのか？

うーん、身長はクラスで4分の3番目というなんとも言えない高さで、

自分的には顔は中の上ぐらい（だったらいいなあ…）

それと声が少し高いのと性格が残念だからしゃべらない方がいいのにとよく言われる…

あつもちろん、彼女いない歴＝年齢＝高校2年の16才ですけど…

べべっ、別に画面の向こうというよりむしろ脳内に彼女いるから悔しくも悲しくもないんだからね！

うん、目を瞑ればいつでも会える。脳内彼女の獣人の美海さんの猫耳はいつも通りかわいいよ！

ああ、美海にゃんマジにゃんこ！ほらね！

よーし、美海にゃん分補充完了！今日も頑張るとしますかあー！

さつき朝に声を掛けてきたのが、浅沼浩介あさぬまこうけいといって

高1高2と同じクラスでたしか…5月生まれだから17才のハズ！

でもすごい熟女好き…

だって、この前の登校中にこのロリコンとかふざけて言ったら…  
ん？ロリコンだと…ふざけんじゃねえ！俺は熟女好きなんだよ！  
35才以上お断りだ！

と学校へ着いて教室につくまで語られた…

いやあ、あいつの性癖なんて聞いた所で±0所かむしろ。だったんでそれからロリコンとかそういう系の文句はいくら悪ふざけでも  
言わないように気をつけている…

だから、こいつけっこうかっこいいと思うのに彼女いないのか…

なぐんて考えてる4時間目…



### 3話

いきなりすぎるけど腹というより胃が痛い…

今までの中でも一番痛い…

胃が痛くなったのは初めてだわ…

いや、わりとマジで！

うーん、朝食はいつもより少なめだったけど昼休みに宿題やってたせいで昼飯食わなかったせいかな？ ああ、しかもよりによって、

浮島の英語の授業…

あんまりうけたくないけど残り30分やし…

でも、授業のスピード少しはやいから聞かないとわかんないんだよね…

困ったな…

まあ、仕方ない、机の上に上半身を預けてノートとるとするか…

うん、少し楽になった！

だが、5分ぐらいすると…

「おいつ、南城！くねくねするな！」

とさっそく浮島に怒鳴られた…

いやいや、くねくねするなってどついう事だ！

ちよつと上半身を机に預けてノート取ってるだけだぞ…と思いつつ  
も、姿勢を直さなかったら余計に怒られんで、仕方なく姿勢を直した。

しかし、ものの5分もすると、さっきの姿勢のおかげで痛みが弱ま  
つてた反動のせいなのかいつ胃が、

痛い痛い痛いイタいいたいイタいいたい！

って訳であまりにも痛いので、胃の辺りを押さえて下を見て耐えていたら…

バゴツ！

ツ…

ちよ〜頭いてえ〜！

えっ、ちよっ、んぬ、何があつた？

顔を上げてみるとそこには浮島が教科書を持って立っていた。  
どうやら教科書の背表紙で殴られたらしい。

この英語の教科書はよくあるライトノベルとかと同じぐらいの太さ  
なのだが背表紙がしっかりしていて結構、丈夫にできているのだ。

「おいつ、南城！どうして今、辞書開いてないんだ？

俺は、辞書開けていっただろ？開いてないってことは、お前、寝  
てただろ？

ほらっ、本当の事いってみろ！」

と睨まれながら言われたが、

ん？殴られて頭が痛いせいか、頭に意識がいき胃があまり痛くない  
だと？

先生殴ってくれてありがと〜う！胃の痛みが楽になったよ！

いやいやまだどっちもいてえよ！ってか痛い場所増えたじゃねえか…

バカやるうなんてすっげえ下らない事を考えながら…

「いや、寝てないっすよ。胃」

バゴッソ！

「おいっ、嘘をつくな！じゃあ、だったらなんで辞書開いてないんだ。言い訳なんかするな！」

ツ… 頭が真っ白になった。

いてえ！ちよっ、さつきよりもいてえ！

いや、まだ続きのセリフがあったのに…

ってか最後まで人の話し聞けっの教師だろ…

それより、教科書を上から大きく振りかぶってフルスイングで重力で攻撃力を増させながら叩きつけるってどういう事ですか？

しかもさつき叩いた所と同じ箇所寸分変わらずに今回は教科書の角で！

と頭を押さえてみると…

ぬぬぬ？あれっ、だんだん腫れてきた…

って事はだよ…この殴られた箇所はたんこぶになってきてるって事

じゃん…

あーあ…どうしよう…

頭を押さえながら前を見るとちよっど浮島が教壇に戻る所だったが、何故かいきなり後ろを振り向くと、

ニヤリw

ぶっ、ザマアwww

とでもいいたげなとてムカつく笑顔を向けてきた…

うっわ…本当ムカつくわ…

その後、浮島には何も言われず無事じゃないけど…  
胃の痛みと頭のたんこぶの痛みをこらえてたらやっと4時間目の浮  
島の授業が終わった…

ああ、嫌な予感で当たるんだな…

2度ある事は3度あるんだ…

あゝあ…本当、ツイてない…





## 4話

浮島の授業が終わって休み時間に昼飯を食べたら無事に腹の痛みが治まったのはいいが・・・

5時間目も頭のたんこぶが痛かったので5時間の休み時間に保健室に行ったりしたけど、

6時間目は何事もなく？（頭のたんこぶに氷嚢をのせてたから視線がイタかったが…）

過ごせ放課後にやっと学校が終わったあゝと伸びをしていると、  
浩介が、

「まあ、あれはツイてなかったな。まあ、ドンマイ！って訳で今日も途中まで一緒に帰ろうぜ？」

と笑われながら言われた…

いやいや、ふざけんなよ！まだ、マジで痛いんだから…

ああ、明日には治ってればいいなあ等と思いつながら、

「ああ、いいよ〜」

まっ、彼女がいない男どうしで、用事がなければだいたいいつも一緒に帰ってるけどな！

「朝、お前がテンション低すぎたせいで言えなかったんだけど…」

「おっと、何さ？ってかまだ頭痛いからテンション低いけどな！」

「うーん、どうしようかな？やっぱり言つのやめようかな？」

「ちよっ…おいおい、焦らすなって！」

「仕方ない…まあ、テンションが低くてかわいそうなお前に、これをやるっ。」

といて、USBを渡された。

「どねどね？」

ふむふむ、よくよくみると4Gと書いてあった。

「このUSBが4ギガってことは…PC用のギャルゲーそれともまさかのerror？」

「まあ、ゲームってのはあっているが、家帰って中身を見ればわかる。」

多分、内容は明日に新聞とかに載ると思うけど…まあ、1日先取りしたスクープだから！」

「えっ？」

「おっと、じゃあ、この曲がり角でお別れだな。じゃあな〜！」

「おいおい、だからこの中身はなんなんだよ〜！ってかこのUSB見たら返した方がいい感じ？」

「そのUSBはあげるわ〜 まっ、見てのお楽しみってやつで！」

「あ〜もう！マジっすか…！」

アイツは、教えないって言ったら教えてくれた試しがない…

仕方ない、家帰ってからPCを立ち上げるとするかあ〜！  
ってか…家までぼっちだな…

## 4話（後書き）

ゴタゴタしておそくなりました・・・

## 5話(前書き)

。 。 。 。 。 Merry - X - mas : : \* 。 。 。 。 。  
\* : : \* : : Merry Xmas : : \* : : \* : : \*

( ` ` ) < Merry Christmas

とリア充がきやつきや連呼している中、

眩しすぎるから毎年、自分はつつむいてメリークルシミマス 。 。 。

## 5話

やっぱり、家までぼっちかあ…  
うーん…いやいや、俺には脳内彼女がいる！

「いでよ、美海たん！」

美海たんってのはうちで飼っているミニという黒猫を脳内で擬人化したやつなのだ！

ちよ〜猫だけに猫顔でもものすごくきゃわゆいのだよ！

本当にもう、結婚したいわあ〜

つてもう嫁だったわwww

ほんま、惚気けてサーセン！

「なあ〜美海たん！」

「なんでございましょう。御主人様？」

おっ、今日はメイド服っすか？黒を基調としたフリフリとかない清楚な実用性重視のやつだ。

ん？ 胸はどのくらいの大きさだと？

それは、小さすぎず大きすぎでもない中ぐらいの大きさだ！

えっ、なになに？中ぐらいより巨乳の方がいいだろ！

いやいや、大きくてもね…そりゃ、触り心地とかは良さそうだけど

：

んぬぬっ？

ふざけんじゃねえ、中ぐらいより貧乳の方がいいだろ！

あっ、いやだつてオレさ〜ロリータコンプレックス略してロリコン

なんだよね〜

つて誰だかしらんけど、お前ら頭のなかで巨乳vs貧乳でケンカするな！

うっさいわ！

むしろお前ら誰だよ！

かってに頭の中でバトルを繰り広げるなよ！

だからさ何にも一番いい大きさつてもものがあるのだよ。

そして中ぐらいというのがこのメイド服に一番あう黄金比な大きさだよ！

まっ、見た目なんて簡単に替えられるのだがな！

だから次回の服装によっては意見を取り入れてあげるからさ…

疲れるんで、黙ってて下さい。お願いします…

それで背は自分よりすこしちいさいかな？

あと、髪とか目の色は自分の気分によってかわるっばい。

ちなみに、この能力？が初めて発動できるようになったのは中学二年生の時からだった。

最初はボンヤリと、数秒だけだったが中三になると一時間ぐらい。

高一になると半日ぐらいになって…

現在では、この前気合い入れて時間を計ったらなんと24時間！

1日中、愛でたり話したり愛でたりしてたぜ！グへへ…ちよ〜俺得！

それはそうとして、おう、美海ちゃんと話し途中だったんだっけ？

せっかくの学校で疲れた分の癒やしをお前ら邪魔すんな！



「そんでさ〜会話の途中に美海をまたせて悪かったね…」

「御主人様がトリップするのはよくある事ですからあまり気にしてないです。」

とか言ってるやっぱり起こってるよね？

「御主人様、御主人様、怒ってなんかいませんってさっき言ったじゃないですか？」

「ぐぬぬっ？なんで頭の中が読めるんだ？」

「御主人様、そりゃあ私の事を御主人様が頭の中で生んでくださったからです。」

ああ、そっかそっか忘れかけてた…

頭の中にいたんだっけ…

美海が出てくるとなんか何時も隣にいるような感覚がするんだよね…  
どつりで最近道を歩いている時の視線がイタいわけか…

「御主人様、そして私を呼んだからには何か話があるのですよね？」

そういえば…あっ！

「ごめん、ごめん！そうだった！ほらっ、美海さんは、この浩介がくれたUSBについてどう思う？」

「このUSBですか？私もわかりません。流石に情報が少なすぎます。」

「だよなあ、わかんないよなあ…おっ、もう玄関だ！」

なんて、頭の中で会話をしているうちに玄関まで来ていた。やっぱり楽しい時は、時間が経つのはやいなあ〜

## 5話（後書き）

クリスマスのイルミネーションが自分には眩しすぎて・・・  
コートのフード被ってイヤホンで曲聴いて耳ふさいでないと、  
さすがにイルミネーションのところを歩けません・・・  
独りで歩いているだけで、アイツぼっちだ！  
って、リア充に指さされて笑われているような感じがします。  
リア充さんたち、なんか恐いっす・・・

うん・・・これに共感できる人っているのかなあ??

彼氏、彼女できたことがない人ならわかるよね??多分けどサ・・・

べっ、べつに悔しくなんかないんだからね！

とりあえずメリクリ

ではなく、メリクル

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7186y/>

---

君が僕であなが私

2011年12月24日10時53分発行